＼ 2022年度 活動のハイライト ／

シリア

国内避難民が集まる、支援が届きにくい地域で幼稚園を運営し受け入れ人数を3倍に

かつてシリアは教育レベルが高く大学まで学費が無料。ほぼ全ての子ども達が学校に行くことができました。

しかし長引く戦争で、シリア国内の1/3の子ども達が教育を受けることができていません。

シリア北西部に、基礎教育と心のケアの場所として、継続的に幼稚園を運営。100人規模から300人に受け入れ人数を増やしています！

トルコ

難民として生きるトルコで必要な学力をつける補習校

トルコで難民として生活するシリアの子ども達は無料でトルコの学校に通えます。しかし、母国語のアラビア語ではないトルコ語での授業についていけず、1/3のシリアの子ども達が退学をしています。そこで、トルコの学校に戻るためのトルコ語の補習と、いつかシリアに戻れるよう母国語のアラビア語を学ぶ授業、そして心のケアのアクティビティを行なっています。

日本

課題ではなく魅力を伝えるオンライン・対面のイベント

「かわいそうではなく、大好きだから応援したい」と感じていただけるような情報発信を大切にしてきたPiece of Syria。オンラインで「シリアの文化を学ぶ教養ゼミ」「シリアと実況中継！ダマスカスツアー」を、そして対面イベントも復活。大阪・東京で「シリア人と行く！アラブ料理ランチとモスク見学ツアー」「NPO法人一周年記念イベント」、浜松でも初めてイベントを実施しました。

団体の組織基盤を強化し地震後も迅速な支援体制を

シリアの戦争は12年も経ち、インフレ、燃料不足により、生活は今までで一番厳しいという状況の中で起こったのが、2023年2月6日の大地震でした。

現地の状況・必要な支援を把握して、すぐに寄付集めを始めることができたのは、組織基盤強化を進めていたから。復興支援のために日々、国内外で議論を進めています。

シリアの未来を一緒に作る仲間の皆様

Special Supporters

【Special Supporters】
認定NPO法人まなびと様、大原 和司様、Hiroshima Gakuin 66K C2B様・京子様、小笠原 功雄様、正恵様、中山 迅一様、梁瀬 伸吾様、一木一草ジュエリー様、株式会社メディカルCOCO様、工藤 泰三様(名古屋学院大学)
【ご協力企業様・リターンご提供者様】
apan Engine Valve Co.,Ltd.様、株式会社アレッポの石鹸様、きたむら さとし様、YDY様、Ahlam様、m.olive様、JAMMIN様、世界のごちそう博物館様、喫茶 壁と卵様、SNACK LIFE IS ROSE様、With the World様、エリートバレエスタジオ様
【学生チーム・イベントボランティア】
Sadaf Shaikhさん、佐々木 舞香さん、北内 希実さん、小林 ますみさん、白井 郁乃さん、大橋 さえ子さん、児島 千晶さん、清田 里菜さん、久保 浩さん、高橋 美幸さん、植林 良太さん、丸谷 祈さん、福西 浩樹さん、西坂 由起子さん、堀田 さくらさん、北澤 郁美さん、藤原 大さん

中野 貴行

鈴木 のどか

金澤 鮎香

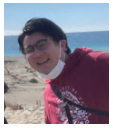
鈴木 慶樹

伊藤 広

石井 貴幸

Shiho

君嶌 優歌


佐々木 颯

中野 秀敏

武田 祐輔

SNSでPiece of Syriaとつながる

サポーター限定！

【Facebook】 piece.of.syria
【instagram】 @piece.of.syria
【Twitter】 @piece_of_syria
【Youtube】 PieceofSyria

サポーター限定
Facebook
コミュニティも
始めました
Check!!▶

シリア支援団体 Piece of Syria

Web: http://piece-of-syria.org
Mail: contact@piece-of-syria.org

〒558-0033 大阪市住吉区清水丘1-15-23
Piece of Syria事務所

Piece of Syria

Piece of Syria

活動報告書
2022年4月
～23年3月

شكراً

ありがとう。

あなたのおかげで、
私は今、学校に行くことができています。

幼稚園が大好き！
だって、友達と遊べて
勉強ができるから！

現地パートナーNGO代表からのメッセージ

あなたといっしょに未来の平和を創っています

ご支援をしていただいた日本の皆様、本当にありがとうございます。Piece of Syriaと私たちは6年以上、活動を共にしています。ご支援いただく日本の皆様に支えられ、戦争によって大変な状況になったシリアの子ども達は、教育を受け、復興の土台となっています。教育プロジェクトの成果は目に見える形で生まれています。

2023年2月に、トルコ・シリアを襲った地震は、シリアの人たちを絶望に突き落としました。しかし日本の皆様はその際も、被災者を見捨てることなくご支援を届けてくださいました。これは地震による復興の大変さや、子ども達への心理的影響、そして教育の重要性を、最も理解されているのは、日本の皆様だからだと私は思います。緊急支援のご寄付は、先生を中心にしたテント・防寒・食料キットの配布や、生徒・保護者・先生が教育に復帰するための心理的ケアの実施に活用させていただいています。

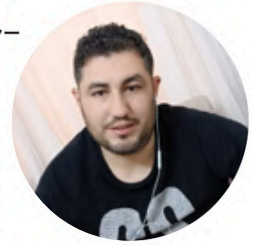
日本の皆様が、本当に困難な状況の中にある私たちをいつも支えてくださっていることに、どんな方法で感謝を伝えたら良いか分かりません。その感謝に代えて、シリアの未来を築くために、最高の教育を子ども達に届けることを約束させてください。

あなたと私たちが作っているのは学校ではなく、未来の世代です。シリアの未来の平和が実現した時、それは教育を通じて「シリアの子ども達と日本の皆さんと共に作った世界なんだ」と言えます。

改めて、本当に大きなご支援をいただいていることに感謝を込めて。

A Little Help is Enough　創設者・代表
Education Without Borders　プロジェクトマネージャー

Usama Ajjan



アレッポ大学 英語学科卒業。在学中、日本語を学ぶ。
卒業後、小中高それぞれの学校で英語教師として働き、戦争開始後は教育支援団体【A Little Help is Enough】設立。
2013年よりトルコに避難し、シリア国内とトルコのシリア難民向けの教育支援NGO【Education Without Borders】の教育プロジェクトマネージャーを兼務。2019年、トルコ市民権を獲得。日本に行き、華道を学ぶのが夢。

Piece of Syria代表からのメッセージ

「シリアをまた行きたい国にする」を実現するために

温かなご支援を届けていただき、本当にありがとうございます。

Piece of Syriaは、一人ひとりは小さな力であっても、パズルのように力を合わせて平和を実現できることを信じて、2016年に立ち上げました。まさに、その名前を体現するように、徐々に支援の輪が広がり、組織体制も整っていき、皆様と共に、一歩ずつ確実に成長をしています。

私たちは、シリアの歴史を振り返った時に、欠けていた「歴史の1ピース」を埋めるような、そんな活動を経て、シリアをまた行きたい国にすることを目指しています。支援者の皆様と、その過程を共に歩んでいることを感じていただけるような素敵な報告ができるよう、これからも精一杯活動をしていきます。

戦争から12年が経ち、大地震で改めて注目されたシリアですが、政治的な複雑さは変わらず続いています。支援による和解になるか、分断になるかはまだ流動的ではありますが「平和につながる支援」となるよう僕らも行動しています。

平和な未来を実現するために、これからも温かく見守ってくださいませ。

Piece of Syria　創設者・代表理事

中野貴行

2008-10年、青年海外協力隊・村落開発普及員としてシリア北部アレッポ県マンベジ郡で母子保健プロジェクトに参画。2015年より中東・欧州10カ国にて難民となったシリアの人たちや支援団体の人たち100人以上にて社会調査。最も支援が届きにくいシリア国内の教育支援を行なうため、2016年よりPiece of Syriaを立ち上げる。2020年よりJICAケニアで働く妻の随伴でナイロビ在住。

日本で「伝える」活動

課題ではなく魅力で伝えるイベント

文化を学んでシリアを身近に

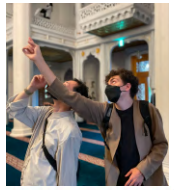
「戦争」「難民」「対立」と言ったイメージを持たれることが多いシリアですが、2010年の戦争が始まるまでは、訪れた人たちが「平和」「共存」「豊か」という印象を感じる国でした。大学まで無料、就学率は99.6%の教育大国、出産・医療は無料、犯罪遭遇率が日本の1/20、食料自給率は108%で安くて美味しい自国産の野菜・果物と美味しいアラブ料理、昼の2時まで働けば家族10人が暮らせる生活がありました。ずっと戦争をしているわけではないのですが、そうした2011年以前の「戦争前」の様子を耳にする機会は多くありません。戦争前の2010年の観光客数は日本より多い世界34位だったシリアを「また行きたい国にする」ためにも、そうした魅力の発信は欠かせません。

コロナ禍以降はオンラインだからできることをテーマに、日本からだけでなく中東在住の日本人・シリア人を招いたイベントも実施してきました。さらに日本語の話せるシリア人ツアーガイドと中継をしてダマスカスを歩く「オンラインツアー」　や支援先のSAKURA幼稚園とを繋ぐ「幼稚園ツアー」、シリアの食・音楽・宗教・文学といった「文化を学ぶ教養ゼミ」など、今まで以上にシリアが身近になる企画を実施しています。

対面イベントの再開

2022年夏、NPO法人化一周年のイベントを大阪・東京で開催しました。団体主催の対面イベントは数年ぶりで、オンラインでしか会ったことがなかったスタッフもいるほどでした。ご支援者様も、久しぶりの方、オンラインでお会いしていた方、初めての方もいらっしゃって、スタッフと一緒に「これからのPiece of Syria」について語らう素敵な時間になりました。

さらにシリア人とアラブ料理とモスク見学ツアーを大阪・東京で、そして初めての浜松イベントも開催。参加者の6歳の女の子が、アラビア語での自己紹介に挑戦し、シリアの幼稚園の子ども達と交流する場面も！「楽しく学びが多いイベントでした」というご感想をいただきました。



メディア掲載

朝日新聞「ひと」欄、テレビ朝日「グッド！モーニング」では、団体代表の想いにフォーカスを当てた取材をしていただきました。地震発生後は現状と支援活動についての取材で、NHK・読売新聞・テレビ大阪からも問い合わせがあり、現地スタッフの話を紹介いただきました。

日本で「支える」活動

組織基盤の強化

成長の土台となる「事務局」の整備

戦争の長期化と複雑な政治状況のなかで、支援のニーズが高いにもかかわらず、シリア支援は減少傾向にありました。また、戦争が終わってすぐに支援が不要になるわけではありません。「シリアをまた行きたい国にする」というビジョン達成のために、安定的に成長していく団体となる必要性を感じ、NPO法人化や基盤強化のための助成を受けるなど、さらに信頼していただける組織を目指しました。

その取り組みで大きな課題となったのが会計・書類整理などの事務作業です。Piece of Syriaは社会人スタッフが、本業がある中で活動をしているため、平日でしか対応できない行政・銀行とのやりとりは難しく、さらに事務局業務の経験のないために、手探りとなり、時間もかかってしまいます。その中で認定NPO法人の事務局経験のある中野秀敏氏が期間限定で加入し、NPO法人における事務局業務の1年間のサイクルが整理されました。その蓄積は、事務局スタッフの鈴木のどかに引き継がれています。

事務局業務が整理されたことで、助成金申請をする際に必要な書類の準備もでき（半年で前年の3倍の6件採択）、代表も含めたスタッフが事業に専念できるようになりました。その結果、活動の予算も増えて、より多くのシリアの子ども達に、より質の高い支援ができるようになっています。

【実施が完了した助成】
2022年7月、組織基盤強化のため、コンサルタントの河合将生氏と共にスタッフ合宿を実施。支援先のSAKURA幼稚園とのオンライン交流、シリア専門家の青山教授とのシリア勉強会、団体の中長期目標についての意見交換を行なうほか、人生曲線を見せながら自分を曝け出すことで、普段オンラインで活動するスタッフ同士の関係性を再構築できました。（Panasonic助成）

内部の組織化、外部の協力

平和の実現は、1人の力ではなく皆の力で

経営、広報、プロジェクト管理などの専門性と情熱を持ったプロボノスタッフが活動に加わり「経営」「広報・ファンドレイジング」「海外プロジェクト管理」で得意分野を活かしたチームが活動をしています。

さらに外部の視点でアドバイスをしてくださる専門家、他のNGO/NPOの方々に相談できるようにして、自分達だけで悩まないようにしています。

【実施が完了した助成】関西NGO助成プログラム（2021年12月～2022年11月）
Panasonic NPO/NGOサポートファンド for SDGs（2022年1～12月）
【これから実施する助成】JICS NGO支援事業、関西NGO助成プログラム、庭野平和財団、フェリシモ地球村の基金、世界の人びとのためのJICA基金活用事業
大阪コミュニティ財団

＼ シリア国内への教育支援 ／

支援が届きにくい場所に教育を届ける

●かつて当たり前だった教育はぜいたく品に

2011年からシリアで始まった戦争は今も続き、就学年齢の1/3の子ども達が学校に行けていません。戦争による治安の悪化やトラウマ、さらに、シリア国内が政治的に分断されて、政府や国際機関からの支援が届きにくい地域があるためです。

特にシリア北西部では、自治体機能が脆弱で、教育や交通機関などの公共サービスがありません。また避難民が集まる地域のため、人口が増えて子どもの数に比べて学校が不足しています。さらに物価の高騰で生活費がどんどん上がっている一方、避難民のために仕事がなく、経済的に私立の幼稚園に行くことはできません。

●「友達と遊ぶ」という日常は、安心・安全があるから

皆様のご支援で幼稚園を運営しています。授業料・教科書代が無料で、通園バスで通うことができるため、あらゆる家庭の子ども達に教育の機会を届けることができます。

幼稚園では、4〜6歳の生徒に、アラビア語(国語)・英語・算数と言った基礎教育、楽しみながら集団生活を過ごすための空手や水泳、情操教育のアクティビティ、そして心理社会学的ケアを提供しています。

戦争によるトラウマから学校を怖がったり、家から出られなかったりすることも、小学校を退学する理由となっています。なので、幼稚園を安心できる場所だと感じてもらうことは、今後、子ども達が学校に通う習慣を身につける上でも大切です。

子ども達に「幼稚園は楽しい？」と尋ねると「楽しいよ！友達と遊べるから！」その声を微笑ましく聞いていると、現地スタッフから「実はね。これって当たり前のことに聞こえるけど、戦争下ではそんな当たり前のことが難しいんだよ」と教えてくれました。
「子ども達だけで外で遊ばせられない。だから安心して遊べる幼稚園という場所が大切なんだ。」

●1人でも多くの子ども達に教育を届けるために

「3年間、学校に行かない期間が続くと、学校に戻らなくなるんだ」と話すのは、長年シリアの教育支援に携わってきた、シリア人の教育プロジェクトマネージャー。だからこそ、教育を受けられない「スキマの世代」を作らないことは重要で、戦時下の教育支援は緊急性も高いです。

教育を受けられない理由は一つではありません。私たちはできることにも限りはありますが、できることを一つずつ積み重ねています。

① 受け入れ生徒数を増やすために

地域に幼稚園を作った際、定員の数倍の希望者が殺到しました。しかし、家庭事情などを考慮して、定員を超えた人数は断らないといけませんでした。1人でも多くの子ども達に教育を届けるために、午前中だけだった授業を午前・午後の2シフト制にして、200人規模の受け入れができるようになりました。

2022年9月の卒園式。205名の生徒が地元の小学校に入学しました。

もっと生徒を増やしたいと思う中、家主から家賃の値上げ要求があり、引っ越しを余儀なくされたのですが、同じ家賃で広い場所を見つけることができました。とはいえ、受け入れ人数を増やすには、より多くの人件費・光熱費も必要です。しかも物価高騰・円安の影響もあるなかで、本当に難しいと思っていたのですが、ご支援が増えたおかげで、2023年4月から300人を受け入れる準備をしています。

本来、幼稚園は1〜3年間通うのですが「全く教育を受ける機会がない」という子ども達が地域に多いことを受けて、現地の教育専門家の判断のもと、通園期間を原則6ヵ月に変更することになりました。

2023年3月の卒園式。4月から300名を受け入れるための準備をしています

② 先生達に毎月、お給料を届ける

「子ども達は未来だから」と給料が出なくても先生として働く人たちも多くいます。その状態が続くと、家族を養うための別の仕事を求めて、先生が学校を去ってしまいます。毎月の給与を先生達に届けることは、先生達が働き続けてくれることに加えて、「今日のご飯をどうしようか」ではなく「明日もっと良い授業をするための準備をしよう」と、質の面でも良い成果を生み出しています。

園長、先生、ソーシャルワーカー、清掃員など15名の職員が働いています

③ 子ども達が通い続けるための楽しむ工夫

公共サービスがない地域のため、公共バスもないですが、皆様のご支援で通園バスを運行しています。バスの中にも楽しむ工夫があるので「バスに乗るために幼稚園に行きたい生徒もいるよ」とスタッフが笑っていました。卒園してからも、時々遊びに来る生徒もいるほどです。

●シリアの幼稚園とオンライン交流

実際に支援している幼稚園の子ども達との交流イベントや、幼稚園の様子を案内してもらうツアーを実施しています。浜松のイベントでは、先生への質問の最中に、子どもたちが「見せたい！」とフルーツ王国の劇の衣装で登場する、思わず笑ってしまうハプニングも…。地震が落ち着いたら、交流はぜひ再開したいと思っています！

現地活動費

●シリア活動費：$45,250/年（615万円）
- $ 284,00：職員給与（15名）
- $ 5,200：教科書、筆記用具など
- $ 11,650：家賃、光熱費、ガソリン代など

クラウドファンディング 471万円（システム手数料を除く）の不足分は、助成金やご寄付により補填しています。

●トルコ活動費：$1,800/月（25万円）
- $ 1,600：職員給与（9名）
- $ 200：筆記用具

（自治体の建物のため、家賃・光熱費無料）

パートナー会員様からお預かりしている継続のご支援 月25万円（2022年1月時点。システム手数料除く）にて運営しています。

上記の数字は、クラウドファンディングとマンスリー支援を用いて実施する活動のみについてのものになります。NPO法人としての決算は、毎年1月頃にウェブサイトに掲載します。
「基盤強化や教育の質の強化のための助成金事業」「大口のご寄付により実施した幼稚園の増員と職員の雇用」「本報告書作成時点で確定していない地震緊急支援活動」は反映しておりません。

＼トルコのシリア難民への教育支援／

トルコの学校に戻るための補習校支援

●200人の子ども達に教育、9人の職員にお給料を

最も多くのシリア難民を受け入れているトルコ。戦争当初はアラビア語で学ぶシリア人学校を認めていましたが、長期化する戦争でシリアに戻ることができないままにトルコに住み続けている難民に対し「帰らないならトルコ語・トルコ文化を学ぶように」と方針を転換しました。

アラビア語の学習を禁止し、国際NGOの教育支援も禁止。就学年齢のシリアの子ども達の35%が学校に行けていません。その理由は、母国語のアラビア語と異なるトルコ語の授業についていけない、難民に対するイジメなどです。またトルコで生まれ育った子ども達が母国語のアラビア語を忘れていくことを懸念する声もあります。

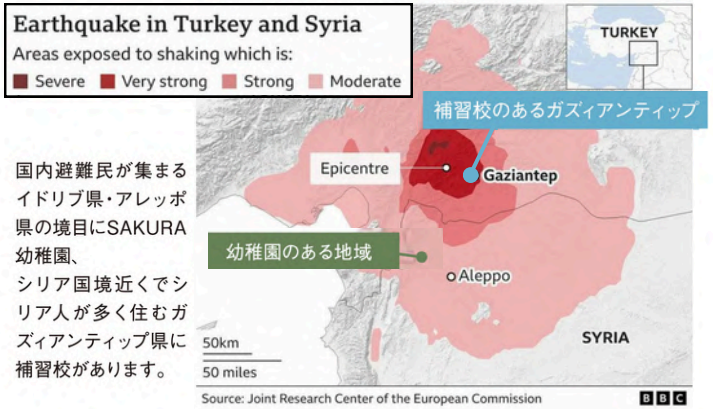
そこで、シリアの人たちが多く住むトルコ南部の町ガズィアンティップで、パートナーNGOである【Education Without Borders】と共に補習校を運営し、トルコの学校の授業についていくためのトルコ語・英語・算数を学ぶ補習と、地域の子ども達との交流の場を作っています。さらに、トルコ政府から認可を受けてアラビア語の授業も実施できており、いつかシリアに戻れるよう、言語や文化を学んでいます。

ブックフェアに参加し、子ども達に好きな本を選んでもらってプレゼントしました

ガズィアンティップ城は、シリアのアレッポ城と似ているのですが、
オスマン帝国時代は、ガズィアンティップとアレッポは同じ県でした。

地震後の心のケア

シリアの幼稚園も、トルコの補習校も、震災1〜2週間後には心のケアのためのアクティビティを実施しました。そして、3月から通常の授業も再開しています。



国内避難民が集まるイドリブ県・アレッポ県の境目にSAKURA幼稚園、
シリア国境近くでシリア人が多く住むガズィアンティップ県に補習校があります。

トルコ・シリア大地震の緊急支援

2023年2月6日、シリア国境近くのトルコ南部で起きた大地震で、活動地であるシリア北西部・トルコ南部は大きな被害を受けました。幸いなことに幼稚園・補習校の生徒、先生、建物は無事でしたが、特にシリアは長引く戦争の中で建物が脆くなっていたこと、そして戦争による政治的な複雑さから支援が届きにくい状況にありました。

そこで地震発生後、すぐに現地に状況把握の連絡をし、クラウドファンディングを実施しました。

夜には氷点下の寒さの中で路上で寝るか、崩壊のリスクのある家に戻るかという状況で、支援する幼稚園の先生もそのような状況にありました。そうした危機の中、1000万円を超えるご寄付が集まり、先生をはじめ、被災したコミュニティの方々にテントや毛布、食料等の配布が実施できています。

そして震災のトラウマの心のケアも重要です。子ども達だけでなく、保護者や先生などの大人の方も含めて、メンタルケアが必要になっていきます。戦争による心の問題に対応してきた、心理社会的ケアの専門家と共に、子どもと家庭の両方をサポートできる体制を整えていきます。私たちは教育支援の団体ですので、こうした心のケアも包括する形で「シリアをまた行きたい国にする」ために、未来の平和を作る活動を一歩ずつ築いてまいります。

震災復興も、教育も、一朝一夕で達成することはできません。
是非、引き続き、私たちの活動を見守っていただけますと幸いです。

新スタッフからのメッセージ

Piece of Syria 事務局スタッフ
鈴木のどか

こんにちは！スタッフの鈴木のどかです。
私は2019年から、ボランティアとしてPiece of Syriaをお手伝いしていたのですが、この度2023年2月より、専従で事務局業務を担うことになりました。ここでは、改めまして私の自己紹介と意気込みをお伝えします。

シリアに関わるまで

物心ついた頃から、世界の文化や暮らしに興味があり、地球儀を眺めたり旅行記を読んだりするのが楽しみな子どもでした。そのうち、それぞれの国が様々な問題を抱えていることを知り、厳しい境遇の中で生きる人たちに寄り添う仕事に関心を持ちました。そして大学生の時に、NGOでインターンを始めました。

2017年、そのNGOの海外研修として、多くのシリア人が難民として暮らすヨルダンに行き、シリア人とヨルダン人の貧困層の方々を対象にした、心のケアの事業に携わりました。

初めてシリア人と関わって印象的だったのは、皆本当に「故郷シリアを愛している」ということでした。戦況が悪化し、どんなに帰るのが難しくても、シリアについて語る時には皆本当に誇らしそうな、夢見るような表情なのです。帰国する前、とあるシリア人に「シリア=戦争のイメージになってしまったことが悲しい。本来のシリアは素敵なところなのだと伝えてほしい」と熱く言われたことが、小さな使命のように心に残ったことを覚えています。

素敵な人達との出会いが活動の原動力

帰国後、企業で働きながら、どこかシリアと繋がれる場所を探していました。そんな中参加したPiece of Syriaのイベントで、「課題ではなく魅力を伝える」という想いに共感しました。さらに、その日のイベントで他の参加者と繋がり、シリアや中東が好きなコミュニティ—が自然発生的に生まれました。皆でアラビア語を勉強したり、アラブ料理教室を開催したりしているうちに、その延長線上でPiece of Syriaのイベントも一緒に作っていくようになりました。私にとっては「支援をしている」という感覚よりも、「一緒にいて心地よい人たちと楽しいことをしている」という感覚で、Piece of Syriaの輪に入っていきました。

私が思うPiece of Syriaの魅力は、あたたかくポジティブな支援の輪が広がっている、ということです。それは活動に関わる時間が長くなるにつれ、より一層感じるようになりました。ボランティアスタッフ、支援者さま、現地のシリア人の方々を含め、活動を通して出会う素敵な方々とのご縁が、私の日常を彩ってくれました。そのような幸福感があったので、本業と両立しながら、ある期間は海外に駐在をしながらでも、Piece of Syriaと関わり続けていました。

一緒にシリアを訪れる日を目指して

これまでは、全員がボランティアやプロボノとして活動を支えてきたPiece of Syriaですが、NPO法人化してから3期目に入り、団体としてこれから活動の幅を拡大していくために、専従スタッフを置くことの必要性が問われてきました。その中で団体として初めての専従スタッフとしてお声掛けいただいたことを、とても有難く思っています。正式にスタッフとして勤務を始めたのが2023年の2月、その6日後に起きた大地震。私のスタッフとしての初仕事が今回の地震対応となり、このタイミングでスタッフとして働き始めたことが、偶然だとは決して思えませんでした。

緊急事態だからこそ、応援してくださる皆さまの温かさを身に染みて感じ、短期間でこれだけ多くのご支援が集まったことに感動しています。恐らく、これを読んでくださっている皆さまの大多数と同じく、私もシリアにまだ行ったことがありません。だからこそ、いつか皆さまと一緒にシリアに行ける日が来て、その興奮を共有できる瞬間を、心から楽しみにしています。決して一朝一夕にはいきませんが、そんな未来が訪れる日まで、一緒にわくわくしながら応援していただけますと幸いです！